

カシラダカ（ホオジロ科） 全長15センチ

カシラダカはロシアなどの亜寒帯で繁殖し、冬鳥として日本に飛来します。

真冬の寒空にも関わらず、平地の疎林や林縁などで活発に動き回っていた。オスは頭頂に短い冠羽があり、名前の由来はこの特徴によるもの。メスには無いので区別されます。数十羽以上の群れが、活発に移動を繰り返しながら近づいてきた。



オスの頭に冠羽があり、立てることが多いので名前がついたようです。

周囲は雪に覆われていたが、道路脇にわずかに現れた土壌を見つけ、数羽が降り立って行った。草木の種子を採食しているようだ。



なかなかじっとしてくれないので、ピント合わせには苦労します。



どこにいるのか分からない程、周囲の風景に溶け込んでいます。

人間の目には、土か小石か種子なのか全く区別が付きませんが、色や形の違いなどで即座に見分けているのでしょう。餌が極端に少なくなる厳冬期であっても、逞しく生き延びています。



晴れ間を狙い、水浴に励んでいる。



寒くはないだろうか、5分間も続けていた。